

マイナス金利下の邦銀経営の課題

吉澤 亮二 CMA

目 次

1. マイナス金利が日本経済と邦銀収益に与えた影響
2. マイナス金利政策で先行する欧州との比較 (共通点と相違点)
3. 銀行経営の課題 (信用力分析の観点から)

本稿では、日本銀行のマイナス金利政策が邦銀の収益に与えた影響と、2017年の邦銀の経営課題につき説明する。信用力分析上重視される銀行収益への影響については、筆者が16年2月に公表した影響の試算値と実績値(16年9月上半期決算)の差異も検証した。経営課題については、マイナス金利導入における先行国である欧州の事例比較を踏まえた上で、17年に邦銀が直面する可能性が高い経営課題につき考察した。

1. マイナス金利が日本経済と邦銀収益に与えた影響

(1) 日本経済に与えた影響

銀行の信用力は、各国のマクロ的な経済動向に大きな影響を受ける。このため、各社個別の財務要因による強みや弱みを理解すると同様に、一国の経済動向が銀行業界の経済・産業リスクに与える影響を考察することが、銀行の信用力を考察するうえでの出発点となる。この観点から、まず、日本のマイナス金利政策(以下、NIRP:

Negative Interest Rate Policy)がマクロ景況にどのような影響を与えたのかを整理したい。

図表1は、NIRPの発表(16年1月29日)の直近月末である15年12月末(または16年1月)から現在(16年12月末時点での公表値)までの間の、主要な経済指標の変化を示している。主要な経済指標の現在までの推移を要約するならば、一定の景況回復基調は見られるが、NIRPは、日本銀行が当初もくろんだような日本経済の確かな景況浮揚(物価上昇年率2%)にはつながっていないということだ。



吉澤 亮二 (よしざわ りょうじ)

S&Pグローバル・レーティング 金融法人及び公的部門格付部 主席アナリスト。
1987年横浜国立大学経営学部卒業。92年ボストン大学経営大学院(MBA)修了。2001年S&P入社。金融機関格付部のリードアナリスト。日本の金融機関の全般的な信用力分析に従事。また、Global Analytical Oversight & Consistency Councilのメンバー。